（第３種郵便物認可）　〔購読料金（前納）１カ月10,500円〕

日刊産業新聞ホームページ
http://www.japanmetal.com/
E-mail hitetsu@sangyo.co.jp
携帯サイト QRコード
http://www.japanmetal.com/m/

国内支社局網
中部支社 名古屋市中区上前津1−4−12 TEL 052(331)3371
中国支社 広島市南区大須賀町14−12 TEL 082(263)5523
北海道支局 札幌市北区北七条西4−8−3 TEL 011(756)1321
福岡支局 福岡市博多区博多駅前4−14−1 TEL 092(472)3887
東北支局 仙台市青葉区大町1−1−8 TEL 022(223)9032
北信越支局 新潟市中央区上大川前通7番町1235 TEL 025(229)4085

日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin

2013年（平成25年）
5月17日（金）
第18254号
Since 1936

発行所 産業新聞社
東京本社 東京都中央区新川1−16−14
編集局（非鉄）TEL 03(5566)8772
FAX 03(5566)8182
総務販売局（購読・配達）TEL 03(5566)8778
FAX 03(5566)8185
大阪本社 大阪市西区靭本町1−5−15
TEL 06(6443)8551 FAX 06(6443)3828
アジア総局 上海市楼山関路85号 東方国際大厦C座1604室
上海支局 TEL 86-21-6278-7750 FAX 86-21-6278-7751

住友鉱山
2年で100億円コスト減
硫酸処理費用圧縮など

住友金属鉱山の家守伸正社長は16日の経営説明会で、向こう2年間をめどにコストを100億円低減する方針を打ち出した。海外資源・製錬拠点の操業費用高騰などで、2013年3月期までの3年間に、全社コストが230億—240億円膨らんだ。「全部とまではいかなくとも、4割程度の100億円を13—14年度で解決したい」（家守社長）とし、比コーラルベイでの硫酸処理費用圧縮などを具体策に掲げた。

海外操業費高騰に対応

家守社長は13年3月期までの前3カ年中期経営計画を総括し、経常損益上の「3つの反省点」として①材料事業の低迷②ゴロ・ニッケル開発プロジェクト（ニューカレドニア）の不調③コスト増—を挙げた。

材料事業については、『選択と集中』の選択は進んだが、収益力は十分でない。収益の上がる事業に『集中』しながら、引き続き『選択』を進める」と話した。ゴロプロジェクトに関しては、すでに出資比率を引き下げ持分法適用対象から除外しており、「（損益上の）手は打てた」。

全社コストは前中計策定時（10年3月期）の想定に対して、11年3月期で60億円増、12年3月期で200億円増、13年3月期で230億—240億円増と年々膨らんだ。資源国における人件費や資機材費の急騰を受け、比タガニートのニッケル製錬プロジェクトやチリのシエラゴルダ銅鉱山開発プロジェクトで、開発費用が増えたことなどによる。

家守社長は、大きな決め手となるコスト低減策はないと述べつつも、「コーラルベイに期待している」と話し、製錬工程に使う硫酸の処理費用を「（鉱石供給者の）リオツバ・ニッケル・マイニング社と共同で下げていきたい」と説明。国内では電力料金の上昇傾向を踏まえて、一層の原単位低減を図るほか、電子材料の製品実収率アップにも努める。

2014年3月期の連結経常利益予想は、金属価格の下落基調や在庫評価益のはく落を織り込み、前期比90億円減の1060億円と置く。現中計最終年度の16年3月期では1500億円を目指す。

比タガニート
13年1.1万㌧
7—9月から操業

住友金属鉱山は16日の経営説明会で、比タガニート・ニッケル製錬プロジェクトの生産計画について、試験操業の始まる2013年7—9月期で3500㌧（ニッケル量、以下同）、フル生産体制に入る同10—12月期で7500㌧と明らかにした。7月に建設工事が完了する予定。14年12月期で年3万㌧操業を見込む。

タガニートでは、高圧硫酸浸出（HPAL）法で低品位のニッケル酸化鉱を処理し、電気ニッケルなどの中間製品となるニッケル・コバルト混合硫化物を生産する。原料を受け入れる住友金属鉱山のニッケル工場（愛媛県新居浜市）では、タガニートの操業開始に向けて、電気ニッケル年6万5000㌧への増産体制をほぼ整えた。

東邦チタニウム
スポンジ40％減産体制
航空機落ち込み 年度内は継続

東邦チタニウムの杉内清信社長は16日の会見で、本年度（2013年度）のスポンジチタンの生産について、能力比で40％減らすと発表した。同社は2月、スポンジの30％減産を公表していたが、杉内社長は「現実の動きとしてはそれをさらに上回る減産体制に入っている」などと話し、事実上、減産幅を修正した。航空機分野の在庫調整も進まず、一般工業分野で需要減少が続いていないことが背景にある。

減産の対象拠点は茅ケ崎工場（神奈川県茅ケ崎市）と若松工場（北九州市若松区）。新たな減産体制は「現時点では1年間継続する前提で考えている」（杉内社長）とした。このため同社の13年度のスポンジ生産量は1万7000㌧程度の水準になる見通し。スポンジとインゴットの13年度販売計画は公表しなかった。

減産強化の要因の1つは同社のスポンジ販売の約半分を占める航空機向けの落ち込み。航空機の生産自体は底堅いものの、中間のサプライチェーンで在庫調整が続いている。

さらに近年はスクラップの使用量が増加し、ミルの段階でスクラップの使用比率は30—40％（重量換算）になるとみられる。またプレート式熱交換器や発電・化学プラント向けの減少などで、一般工業関連も落ち込んでいる。

住友金属鉱山電気亜鉛
蒸溜亜鉛・原料指定問屋
合金用高純度再生亜鉛
大阪亜鉛工業株式会社
取締役社長 林 昭宏
本 社 大阪市西淀川区佃4丁目14番3号 ☎06(6471)2531㈹
東京営業所 東京都墨田区立花2丁目4番5号 ☎03(3618)2351㈹

JOGMEC理事長 河野博文氏に聞く（下）
探鉱・鉱害防止の技術移転
情報集まる「Jサミット」

——アフリカのリスクの高さを指摘する声もある。

「資源開発にリスクはつきものであり、ある程度のリスクを覚悟の上で探鉱・開発を行っていかなければ、中長期的な資源の安定確保は難しい。アフリカが相対的に高リスクだと思われる理由は2つある。政治・社会情勢に関する情報の不足、そして地質情報の不足だ。各国の鉱業政策や税制、インフラなどを含めた政治・社会情勢に関する情報については今回のJサミットで入手することができるだろう。鉱物資源ビジネスに欠かせない地質情報はJOGMECの専門分野だ。今後の探査活動を通じて資源が埋蔵されている可能性のある地域を特定し、日本の企業に情報提供していきたい」

——先行する欧米や近年関与を強める中国と伍（ご）していくために、日本はどのように対応していくのか。

「日本が他の国々よりアドバンテージ（優位性）があるとすれば、それは技術だと思う。日本は優れた技術を持っている。例えばJOGMECは08年、衛星画像を解析して鉱物資源の開発が有望な地域を抽出するための拠点（地質リモートセンシングセンター）をボツワナに設立したが、これは広大な面積から効率的に探査を行うためには有効だ。技術にはもう一つ、鉱害防止技術もある。旧鉱山から流出する鉱排水を処理して、河川などの自然を守ることは、JOGMECの重要な事業の一つで、そうした鉱害防止技術は日本が非常に進んでいる。これから鉱山国になろうとするアフリカ各国にとって、まさに必要不可欠な技術だ。JOGMECはすでにそうした国々に専門家を派遣して、鉱害防止のためのルールについてのアドバイスや坑廃水処理方法など技術移転を行っているが、大変喜ばれている。今後も活動はさらに発展させていくつもりだ」

——ほかには。

「リモートセンシングセンターでは南部アフリカ10カ国以上の技術者に対し、技術移転による人材育成を図っているが、関係国からの評価が高い。もともと日本は地域との共生を重視しており、地元住民の雇用や教育、インフラ整備、技術移転など地域の開発・発展の面で貢献してきた」

「一方で豊富な資金や人材を活用した中国の援助に対する評価も依然高く、それと比較した援助・協力を日本に対して求めてくることもある。日本はそれに対して『量』のみで対抗するのではなく、優位性のある人材育成や技術などの『質』で取り組んでいくことが重要ではないか」

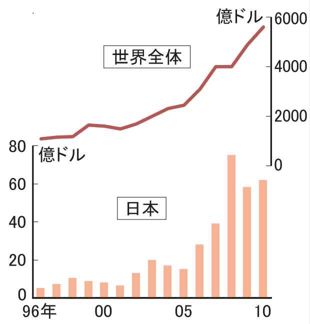
——Jサミットは今後も継続するのか。継続するのであればどのような形を想定しているのか。

「まずは今回の成果を評価した上で考えていくことになるだろう。先に話したようにJサミットはTICADVが1つのきっかけになって開催することになったわけだが、TICADV自体は毎年実施するわけではない。一方で日本の企業・技術と資源企業のマッチングは常に必要なものだ。どのような形が最善なのか、これから考えていきたい」

「今回のJサミットではアフリカに対する日本の貢献の現状や、アフリカの現在の情勢を日本の方々に認知していただくという大きな目的がある。その目的をぜひ果たしたいと思う。またアフリカ各国からの出席者には、日本の技術が資源国をいかに豊かにし得るのかを知っていただきたい。一方、素晴らしい技術を持っていながらこれまで鉱業セクターに目が向いていかなかった日本の企業関係者の皆さんには、その先端的な技術が資源ビジネスに応用可能で、市場も非常に大きいのだということをぜひ理解していただけたらと思う。Jサミットがそうした交流と刺激の場になれば、われわれとしては大変うれしいことだ」

（山田 邦和）

対アフリカ直接投資残高



＊ジェトロ国際収支統計、UNCTAD統計

日刊産業新聞 13.5.17

資源開発技術、一堂に
Jサミット開幕、約80講演

国内外の鉱物資源分野の関係者やアフリカ各国の鉱業担当大臣、資源開発に関する最先端技術を有する日本企業などが一堂に会する国際資源ビジネスサミット（Jサミット）が16日、東京・芝のザ・プリンスパークタワー東京で開幕した。

開幕に先立ちウェルカムスピーチが行われ、日本側から茂木敏充・経済産業相と河野博文・石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）理事長、アフリカ側からスーザン・ジャパング・南アフリカ鉱物資源大臣があいさつした。

河野理事長はあいさつの中で「Jサミットは、アフリカの鉱物資源分野への日本企業の投資を促進するとともに、資源開発の現場で応用可能な日本の最先端技術を紹介し、技術を有する日本企業と資源企業の交流を図るための場として初めて開催した。6月の第5回アフリカ開発会議（TICADV）の成功に貢献するためのものでもある」と開催の意義を説明。「JOGMECとしては今回の開催に終わらず、この場で生まれた新たなプロジェクトや技術開発などを含め、引き続き積極的にサポートさせていただきたい」などと話した。

同サミットは経済産業省が主催し、JOGMECが共催。16日から2日間の日程で約80の講演を開催し、アフリカの鉱物資源や資源企業の活動などについて最新の情報を提供する。同時に50以上のブースを出展し、日本の最先端技術を紹介。資源企業とのビジネス展開も促す。（1面に関連記事）。

河野・JOGMEC理事長

アルミ合金協会
40周年「通過点」
記念祝賀会に160人

あいさつする山本会長

日本アルミニウム合金協会は15日、東京都墨田区の第一ホテル両国で、創立40周年記念祝賀会を開催し、約160人が出席した。山本隆章会長（大紀アルミニウム工業所社長）はあいさつで「40周年は一つの通過点」であることを強調。二次合金事業は、リサイクルを基盤にしつつ、国内産業で強いと目されている自動車事業と関連しているため「協会の必要性は、今後さらに増していく」との考えを述べた。祝賀会の前には総会、記念講演会や式典が行われた。

一方、来賓代表としてあいさつした、経済産業省製造産業局の及川洋非鉄金属課長は、これまで築き上げてきた協会のリサイクル体制に敬意を表した。アルミ需要については、「本年度後半ごろから、回復の兆しが見えていると聞く」と明るい見通しを述べ、解決すべき問題としては「電力コスト上昇など」を挙げた。

また、感謝状受賞者代表のあいさつに立った、福岡アルミ工業の上田雄三社長は、業界が発展していくための必要事項を話した。さらに、乾杯の音頭に立ったサミット昭和アルミの鈴木良彦社長は、孔子の言葉「四十にして惑わず」を引用し、「この業界が非常に大事との自信を持ち、40周年を迎えた後も迷わず進んでいきたい」と語った。

きょうの紙面

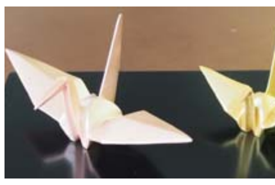
電炉ダストから高純度亜鉛…キノテックソーラー 11面
露ルサール、価格低迷なら追加で能力削減も （8面）
銅スクラップ3月輸出、中国向け割合低下 （10面）

スクラップ 亜鉛 現金買入
カークサイト（金型）・丹入コロ・ダライ粉・その他
各種亜鉛再生塊製造販売
JAB QMS Accreditation R044
METAL 株式会社 市川金属
本 社 岐阜県各務原市鵜沼朝日町1−33 TEL 058(370)4655㈹
東京営業所 神奈川県厚木市金田391−1 TEL 046(294)3700㈹

東京でジョイントミーティング開催
—WCCなど

世界の電線、伸銅メーカーで組織する国際銅加工業者協議会（IWCC）と鉱山、製錬メーカーによる「ジョイントミーティング」が13、15日に東京・虎ノ門のホテルオークラ東京で開催された。国内外から300人強が参加し、銅産業や新興国の経済情勢をテーマにした16のプレゼンテーションや、菅原一秀・経済産業副大臣、宇宙飛行士の山崎直子さんらによる基調講演などが行われた。

参加者には富山県高岡市で造られた銅、黄銅鋳物の鶴の置物を贈呈し、IWCC設立60周年の記念大会は閉幕した。（11面に関連記事）



参加者に配られた銅製の折鶴

銅建値77万円
2万円下げ

JX日鉱日石金属は16日、5月積み銅建値をトン2万円引き下げ、77万円に改定したと発表した。月内推定平均値は77万3100円となった。海外相場の下落を映した。

指標となる現地15日のロンドン金属取引所（LME）の銅現物セツルメントはトン7095・5㌦で、前回改定時の7390・5㌦より295㌦安かった。月初に6800㌦台まで急落した海外相場は、先週末には堅調な米経済指標を好感して、一時7400㌦近辺まで急反発。しかし、その後は中国の経済成長鈍化への失望感などから売り圧力が増し、再び急反落した。

この日の東京為替TTSは1㌦＝103・17円と、前回改定時より0・25円の円安ドル高に振れている。

銅建値推移
（1000円/トン）

2013年		月間平均
4月8日	770	764.700
11日	800	783.300
16日	740	754.700
24日	720	750.900
5月7日	770	
13日	790	785.700
16日	770	773.100

チタン・スーパーアロイスクラップ買取ります
阪和興業グループ
昭和メタル株式会社
SK Showa Metal co.ltd
『限りある資源を再利用し、地球環境の保全に役立ちたい』昭和メタル株式会社はチタン、コバルト、ニッケル等の希少金属のリサイクルを行っています。
JQA ISO 9001:2000 JQA-QM9046

〒210-0869 神奈川県川崎市川崎区東扇島6-26
TEL044−277−1431 FAX044−277−1432
http://www.sk-showa.co.jp/

私たちは、メタルリサイクルを通して
皆様と社会に貢献出来るよう努力していきます。

株式会社 メタルドウ www.raremetal.co.jp/
本 社 大阪市西区京町堀3丁目5番6号 TEL.06-6448-5151（代表）
1st物流センター 大阪市此花区常吉1丁目1番76号 TEL.06-6462-5851
2nd物流センター 神戸市中央区港島南町3丁目5番4 TEL.078-306-1108
東京支店 東京都江東区新木場3丁目4番12号 TEL.03-3522-5658

ISO 9001・14001 認証取得
株式会社 F★ステーション サイトウ
代表取締役 齋藤久雄
高価買取
銅 電線 給湯器 エアコン
鉄 パソコン 電化製品 プラスチック類
強化買取
営業時間 月〜金 午前8:30〜午後6:00 日曜・祝祭日は休ませて頂きます。
土 午前8:30〜午後5:00
詳しくは 0120-5374-66（ゴミナシ）
〒339-0033 埼玉県さいたま市岩槻区黒谷381
http://www.fs-saito.co.jp